

★香川県教育委員会研究団体等研究委託事業★  
—さめきの授業 基礎・基本 実践事例集—

# 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けた実践事例集

## 中学校編



平成30年2月  
香川県教育委員会

# 目 次

I はじめに	1 p
--------	-----

## II 実践例

### <主体的な学びの視点からの授業改善例>

○ 意欲的に詩の授業に取り組みさせるには(国語)	2 p
○ 生徒が、主体的に学習に取り組むには(社会)	3 p
○ 主体的な学びとは具体的にどのような学習活動を取り入れるのか(数学)	4 p
○ 生徒に主体的に実験に取り組みさせるには、どのような工夫があるか(理科)	5 p
○ 生徒の「主体的な学び」を促し、自ら追究したくなる授業づくりの工夫は(音楽)	6 p
○ 抽象作品に興味や関心を持たせ、主体的に制作に取り組みさせるには(美術)	7 p
○ 器械運動に興味や関心を持ち、学習活動を振り返るには(保健体育)	8 p
○ 主体的に学ぼうとする態度を身に付けるには(技術・家庭)	9 p
○ 生徒が本気で学びたいと思える授業とは(外国語)	10 p

### <対話的な学びの視点からの授業改善例>

○ 考えを広げたり深めたりするための対話を実現させるには(国語)	11 p
○ 歴史的分野で、対話的な学びを実現するには(社会)	12 p
○ 全員が主体的に話し合い活動を行い、それぞれの考えを深める手立ては(数学)	13 p
○ 対話を通して、観察、実験での気づきを共有させるには(理科)	14 p
○ 生徒が習得している知識を活用しながら思いや意図を持って創作できるようにするには(音楽)	15 p
○ 子ども同士の対話を中心に学習を進めるためには(美術)	16 p
○ 共に考えを深め合う対話を実現させるためには(保健体育)	17 p
○ 友だちと協力して、自分に似合う衣服を考えるには(技術・家庭)	18 p
○ 生徒が主体的に話す活動に取り組むためには(外国語)	19 p

### <深い学びの視点からの授業改善例>

○ 小説を読む「楽しさ」を味わわせるには(国語)	20 p
○ 「時代を大観する学習」を、深い理解につなぐには(社会)	21 p
○ 数学的な思考を高め、より深い学びにするには(数学)	22 p
○ 結果から科学的に考察を深めていくには(理科)	23 p
○ 対話的な学びによる創作活動の授業にするには(音楽)	24 p
○ 話し合い活動を通して表現力を習得させるためには(美術)	25 p
○ なかまとの交流を通して、見方・考え方を深め、ときめきのある授業にするには(保健体育)	26 p
○ 生活課題について多角的に捉えさせるには(技術・家庭)	27 p
○ 学んだ知識を関連づけ、表現力を高めるには(外国語)	28 p

III おわりに	29 p
----------	------

# I はじめに

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導が求められています。そして、授業改善の具体的な内容については、新学習指導要領解説総則編において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されています。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

本冊子は、香川県中学校教育研究会に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する実践研究を行っていただき、提供いただいた81事例のうち27事例をまとめたものです。この冊子が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、現職教育や教科部会等で活用されることで、より、目の前の子どもの実態に即した授業改善が充実していくことを願っています。

なお、本冊子で紹介できなかった事例については、県教育センターのホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

Q 意欲的に詩の授業に取り組ませるにはどうしたらいいですか？

A 作者の優れた表現を取り入れた詩を作らせてみましょう。

本時、こんな力を育てたい

色彩に込められた作者の意図を読み取り、色彩豊かな文章を書こうとする力

【本時の学習】

<学習前の生徒の姿>

色がたくさん出てきたけど、どうして「愛する人の死」を明るい色で表現したのかな？



【ワークシートの例 ↓】

本時の流れ

1 詩の中に出てくる「色」を表す言葉に注目し、作者の意図を読み取る。



2 色彩によって「気持ち」を表せることを知る。



3 色彩を用いて、「自分の好きな人」を表現する。



4 友達と作品を交流し、良い点を具体的に認めてもらうことを通して、自分の優れた表現に気づき、さらに良くするために推敲する。

ジャンプ課題 色彩を表す言葉を使って、好きな人を想う詩を作ろう。

私の好きな人は…

手順

①好きな人のイメージカラーを決める。

②好きな人から連想する言葉やシチュエーションを考える。

③言葉を並び替えて、3〜4行の詩の形に整える。

黒…

小さな巨人、虎、鬼

相手をおそれないフレイ

地面に響くボールの音

巨体に穴、こぶ小さな巨人

その少女はまるで鬼のよう

黒く光るその瞳

まるで狩りをする虎のよう

バスケットボール選手  
NBA 史上最も低い身長  
で得点王となった。

アレン・アイバーソン

👉 **ここがポイント！ 教師の支援**

- 前年度の先輩の作品を参考にさせ、「私にも作れる」という見通しを持たせる。
- 直接的に「色」を表す言葉だけでなく、色を連想させる「モノ」を使う方法（レモン→黄 等）も取り入れながら、「好きな人」の魅力を語らせる。
- 表現技法や言葉の使い方など、観点を示して鑑賞し合うようにする。特に既習の表現技法を確認し、積極的に評価に生かすよう促す。

<学習後の生徒の感想>

- 色を使って自分の気持ちを表現することは楽しかった。
- 「好きな人」の魅力がもっと伝わるようにするには、どんな言葉を使ったらよいか、友達と相談できた。
- 作品作りを通して、作者がなぜ愛する智恵子の死に明るい色を使ったのか分かった気がする。
- 自分の考えた比喩が友達に認められて、表現する楽しさが分かった。



Q 生徒が、主体的に学習に取り組むには、どのような工夫がありますか？

A 生徒が自己の考えを持ち、選択・判断できる課題を設定しましょう？

本時、こんな力を育てたい

財政の役割や租税の意義について理解するとともに、見方・考え方を働かせながら、今後の財政や租税の在り方に考えていこうとする力

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

消費税が上がると、いろんなものが高くなるのはいやだけど、国の借金も減らしておいてほしいなあ。



【本時の授業】

(使用した資料の例)

○新聞記事『社会保障充実に1.5兆円』

政府が消費税を活用して2015年度に実施する社会保障の充実策の全容が8日、判明した。全体の財源は、消費税8%への引き上げによる増収分からの1兆3500億円に加え、社会保障と税の一体改革に基づく医療や介護の見直しで1400億円を節約して上積みし計1兆4900億円を確保する。

○世論調査『再増税に反対7割 消費税8%でも負担感』

本時の流れ

- 1 学習課題を設定する。  
「あなたは、消費税の増税に賛成ですか。反対ですか？」
- 2 『賛成』・『反対』を色札で意思表示し、理由を示す。
- 3 意見の根拠となる資料をさらに探したり、相手の意見に対する質問を考えたりする。
- 4 話し合ったことを基にパネルディスカッションを行う。
- 5 再度意思決定するとともに、本時の学習を振り返る。

ここがポイント! 教師の支援

教師自身が、働かせたい見方・考え方を意識して資料を準備したり、発問したりすることが大切です。

(持続可能性)

- ・ 増え続ける国債残高と歳入、歳出に占める国債
- ・ 少子高齢化の中で増え続ける社会保障費
- ・ 消費税の増税と経済状況による税収の関係

(公正さ)

- ・ 所得の高い人と低い人の税負担の公正さ
- ・ 累進課税である所得税と消費税のバランスの公正さ
- ・ 今を生きる人と未来を生きる人の税負担の公正さ

消費税増税は、生徒にとって直接生活に影響が現れるため、自分事として学習に取り組んでいた。

ここがポイント! 教師の支援

財政、国債、直接税、累進課税、社会保障など、既習の重要語句をボードにして黒板に掲示しておくことで、これらの語句を活用しながら考察したり説明したりすることにつながっていた。

＜学習後の生徒の姿＞

- 私は賛成です。今のことだけを考えるのではなく、未来のことを考えて国の借金を少しでも減らしていくことが今の日本には大切だと思います。私たちが高齢者になっても、充実した社会保障が受けられる社会であって欲しいです。
- 私は反対です。消費税は、貧困層の人も同じ税率なのでそれらの人の生活を苦しめるとともに、消費が落ち込み税収が減るからもしれないからです。将来のことは大切ですが、今を生きる人たちが生きやすい社会を守っていくべきだと思います。



Q 主体的な学びとは具体的にどのような学習活動を取り入れればよいですか？

A 見通しをもたせたり、解決の過程を振り返ったりする場面を設定しましょう。

本時、こんな力を育てたい

自動車の速さと制動距離の関係から関数関係を見つけ、その関係を利用して問題を解決する力

本時の流れ

自動車の速さが時速 20km のとき制動距離は 2.4m で、時速 40km のとき 9.6m であった。

学習課題 時速 100km のときの制動距離を求めよう。

- 1 速度と制動距離の関係について予想する。
- 2 データを増やして、速度と制動距離の関係が2乗に比例することを判断し、その理由を書く。
- 3 課題の解決に、表、式、グラフの何を用いるか選択し、時速 100km のときの制動距離を求める。
- 4 それぞれの求め方をグループや学級全体で発表する。
- 5 本時の学習を振り返り、意見を発表する。

【授業の概要】

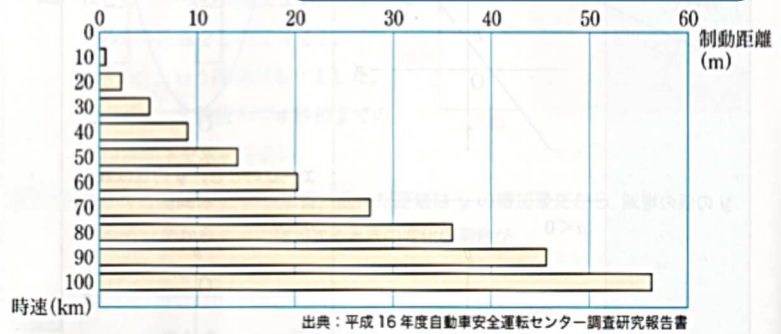
本時は、関数  $y = ax^2$  の利用にあたる。身の回りにある速さと制動距離の関係を、表、式、グラフを用いながら数学的に捉えることでその特徴に気づき、これまで学習した知識や技能を用いて課題を解決していく。

【本時の学習】



＜学習前の生徒の姿＞

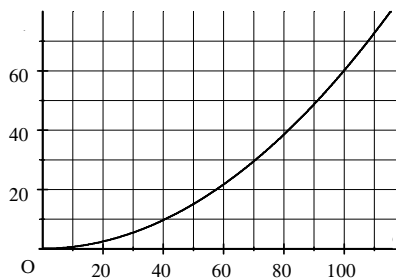
2乗に比例する関数は、身の回りのどのような場面で使うことができるのだろう。



時速 (km)	20	30	40	50	60	...	100
制動距離 (m)	2.4	5.4	9.6	15.0	21.6	...	?

時速  $x$ km の自動車の制動距離を  $y$ m とすると

＜グラフ＞



＜式＞

$$y = 0.006x^2$$

ここがポイント！ 教師の支援

- ① 場面を具体的に提示しながら制動距離の説明をし、速度と制動距離が関数関係になっていることに気づかせ、既習の関数を想起させながらそれを用いれば課題解決できるという見通しをもたせる。
- ② 課題解決の過程を振り返らせ、他者の方法と比較しながら、それぞれの解法の高さや関数として表すことの良さ、自分の取り組みについてまとめさせる。

＜学習後の生徒の感想＞

変化の特徴を調べてどのような関数かがわかれば、実験をしなくても課題を解決できることがわかりました。重さの違う車や、雨が降った場合についても考えてみたいです。



Q 生徒に主体的に実験に取り組ませるには、どのような工夫がありますか？

A 身近な生活の中にあるものから教材を持ち寄り、実験をしてみましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

意欲的に実験を行い、理科の学習で得た知識を実生活で役立てようとする力

### 【本時の学習】

#### <学習前の生徒の姿>

理科の学習は、教科書に載っている観察や実験の結果を理解しておけばいいのだよ。



### 本時の流れ

1 酸性・アルカリ性の水溶液の性質を振り返る。

学習課題 いろいろな水溶液の性質を調べよう。

2 自宅から持ってきた身近な液体を発表し、酸性・アルカリ性について予想する。

3 実験を行い、結果をまとめ発表する。

4 酸性・アルカリ性には強弱があることに気づき、ムラサキキャベツ液を使って、色の変化と酸性・アルカリ性の強弱との関係を説明する。

5 本時のまとめをする。

#### ここがポイント！ 教師の支援

自宅にある液体から、生徒自らが実験材料を探し持ち寄ることで、実験への意欲が高まる。



【持参した水溶液】

生徒が持参した液体の性質をムラサキキャベツ液で調べ、色の変化をホワイトボードにまとめた。



【学級全体で共有している様子】

身近な液体の酸性・アルカリ性について学級全体で共通理解を図った。

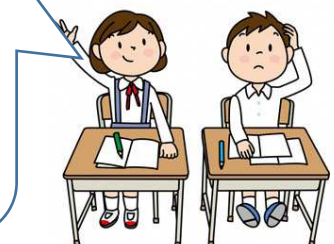
本時のまとめの前に、身近な液体をムラサキキャベツ液に入れて、虹のように色が連続的に変化する演示実験を行うことで、生徒の意欲をさらに引き出すことができる。



【水溶液をムラサキキャベツ液で調べる様子】

#### <学習後の生徒の感想>

自宅にあった身近な液体の性質を調べることで、さらに他の液体の性質も調べてみたいという意欲がわきました。理科の学習は生活と結びついているのだと、この実験を通して思いました。また、ムラサキキャベツを試薬として使えることを知ったので、家でもやってみようと思います。



**Q 生徒の「主体的な学び」を促し、自ら追究したくなる授業づくりの工夫はありますか？**

**A 生徒を教材に惹きつける学習課題と、学びを振り返る場を設定しましょう。**

**本時、こんな力を育てたい**

日本の民謡に関心を持ち、民謡に込められている先人の思いや地域の背景を関連付けながら鑑賞する力

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

「前時に他県の民謡を学習したが、分かりづらいなあ。」  
民謡についての知識をあまり持っていなかった。他県の民謡の鑑賞では、楽器の音色やリズムなどの聴き取りはできたが、歌詞を聴き取ることが難しく、曲のイメージが描けなかった。

本時の流れ

- 1 前時の復習  
(指導以外の民謡を聴く)
- 2 学習課題1  
「浜引き唄」に込められた思いを歌詞から想像してみよう。
- 3 この曲に歌われている情景を歌詞や旋律からイメージし、友だちと共有する。
- 4 学習課題2 (発展)  
「浜引き唄」を今後も残すべきだろうか。
- 5 コミュニケーションボードを使ってグループの意見をまとめる。
- 6 他の班の発表やワークシートから本時を振り返り、学習したことを確認する。

教師の支援

- 聴き取った「さぬき」「うたづ」などの歌詞を引き出し、生徒が住んでいる宇多津町で作られた民謡があったことを押さえる。
- ・「わしはさぬきのうたづのはまし くろいけずねはおやゆずり」の歌詞から、分かる言葉と分からない言葉の意味や、この歌詞にどんな気持ちが込められているのかを、グループ内で意見交換させる。
- ・映像を視聴させることで、時代背景や宇多津町の様子などを理解させ、当時の塩作りの苦勞をイメージさせる補助とする。
- ・2者選択の課題を示し、自分の考えをまとめさせる。選択理由をしっかりと考えさせ、地域の過去から現在、未来への展望を身近なものとして捉えさせる。
- ・自分の意見や他の生徒の考えを視覚化するためにコミュニケーションボードを活用する。また「なぜ、そうしなければいけないのか?」「そうすることがどうしてよいのか?」という他領域との関連にも目を向けさせる。
- ・自分の意見を主張するだけでなく、友だちの意見を聴き、自分の思考の変容や学習した内容をワークシートにまとめさせる。

授業の中での工夫点  
民謡を鑑賞しながら、聴き取れた言葉をワークシートに記入させると、地名や人名などが含まれていることに気付いた。最初、生徒はあまり興味がわからないようであったが、自分が住んでいる地域の民謡だと分かると一気に興味・関心が高まった。

＜学習後の生徒の感想＞

「浜引き唄」には、塩作りに携わった人達の思いや、塩作りで発展してきた宇多津の歴史が込められているので、宇多津町民として、これからも受け継ぎたい。そして、もっとたくさんの民謡や音楽を聴いて、曲に込められた思いや歴史を知りたい。

**ここがポイント! 教師の支援**

- ①基本的な学習課題だけでなく、発展的な学習課題も設けると学習を深めていこうとする姿勢が生まれる。
- ②コミュニケーションボードを使って意見を共有する際、視覚化されるのでまとめやすい。







Q 器械運動に興味や関心を持ち、学習活動を振り返るにはどのような工夫がありますか？

A 教材・教具を工夫して、スモールティーチャーを育成し、自主的に活動する場を設定しましょう。

本時、こんな力を育てたい

なかまと協力し、技のポイントを教え合いながら積極的に練習に取り組み、課題を解決していこうとする力

本時の流れ

1 準備運動・基礎感覚を養う運動を行う。



学習課題 美しく見せる  
ポイントはどこだろう



2 映像を見ながらポイントはどこになるか考えて、ホワイトボードに書く。



3 挑戦したい技にグループで練習する。



4 美しく見せるポイントはどこだったか、グループでまとめて発表する。

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

技ができるかどうか不安だなあ。でも、跳んでみたいなあ。



ここがポイント！ 教師の支援

【教材・教具】

- ・テレビ、タブレット、ホワイトボードを使用して視覚的に見本となる動きを提示することで、学ぶ意欲の向上を図りました。
- ・スモールステップを考え、跳び箱の高さや向きを変えるなど様々な場を設定しました。
- ・踏み切りの弱い生徒がいたので、トランポリンを活用させました。

【学習集団】

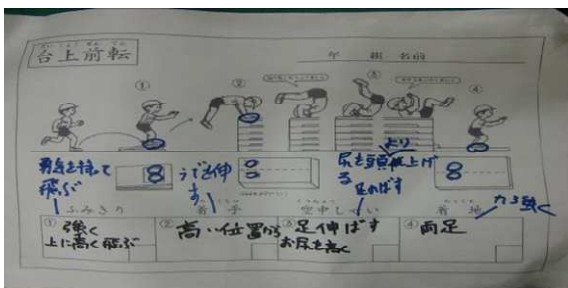
- ・前時に挑戦したい技を聞き、ゼッケンで色分けをしてグループを考えました。その中に、スモールティーチャーを配置し、助言や補助をするようにしました。



【トランポリンの活用】



【タブレットで助言する様子】



【キーワード・・・お尻を高く】

ここがポイント！ 教師の支援

ワークシートは、踏切・空中姿勢・着手・着地に分けて位置や形を理解させるようにし、できるだけ短い言葉でキーワードを作りました。



＜学習後の生徒の感想＞

一番のポイントとなるのは踏切から着手までの空中姿勢だと思った。自分の動きも横からの映像で確認できて、どこを意識して練習したらよいか、よく分かった。

Q 主体的に学ぼうとする態度は、どのようにすれば育てることができますか？

A 実際の活動から課題を見付け、解決策を模索する活動（問題解決的な学習）を実践してみましょう。

本時、こんな力を育てたい

両刃のこぎりで板材を正確に切断できない原因を考察し、自ら解決策を追究していこうとする力

本時の流れ

1 試験材を切断してみて、課題を見付け、班で出し合う。



学習課題

よりよい切断方法を見付けよう。



2 班で対策について検討する。



3 班で検討した対策を、全体に発表する。



4 発表を基に検証・評価する。



5 振り返りシートに相互評価と感想を記入する。

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

まっすぐに切断できるかなあ。  
のこぎりびきは難しそう。作品はうまく作れるのだろうか。



両刃のこぎりを使って、試験材を実際に切断して、その際、失敗の原因となる点について気付いたことを班内で出し合った。その中でも特に問題となる点について話し合っ、全体に発表した。その後、班ごとに重点的に取り組む課題を一つ決め、その解決方法について調べ、報告会を行った。報告を聞いた後、実際に自分が試してみてもよかった方法や、相互評価しての感想を振り返りシートにまとめた。



ここがポイント！ 教師の支援

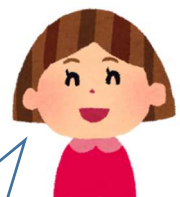
- 話し合いや作業で活発に意見交換をしたり活動したりすることができるよう、班編成は4人までの少人数とした。
- 切断作業のポイントを押さえ、かつ問題解決的な学習となるように、各班から出された課題を教師が内容によって3～5点程度に絞り、その中から班で解決する課題を自分たちの問題意識に基づき一つ選ばせた。今回は
  - ①材料の固定がうまくできない。
  - ②けがき線からずれて切断してしまう。
  - ③のこ身が引き溝につかえてスムーズに動かない。
 の3点から課題を選ばせた。
- 本時の振り返りシートに、生徒間の相互評価ができる内容を盛り込み、友達への称賛を発表する場を設けた。



【報告会の様子】

＜学習後の生徒の感想＞

友達のやり方や自分たちが考えた方法で作業するとうまく切断ことができ、速く正確に切断する自信ができました。「説明が分かりやすかった。」とか、「うまく切れるようになった。」と友達がほめてくれたので、頑張ったかいがありました。



Q 生徒が本気で英語を学びたいと思える授業はどんな授業ですか？

A 「やってみたい」と思わせるような状況づくりの工夫をしましょう。

本時、こんな力を育てたい

失敗を恐れず、自ら英語を読んだり、話したりしようと前向きに取り組もうとする力

本時の流れ

1 事前に学習した本文の内容を復習し、落語の大まかな流れを理解する。

2 実際に自分で一度、自分の思うように落語を演じる。

3 プロの落語を見たり、同じ中学生が演じる落語を、実際に鑑賞したりする。

4 タブレットでお互いの落語を撮影し合う。良かった点・改善点を互いにアドバイスし合う。(学び合い)

5 落語は、いろんな表現方法があるということに気づき、自分の発表に生かす。



【発表会】 友達からもらったアドバイスをもちに、夏休みに練習に取り組んだ。その成果を全体の前で発表した。

<学習前の生徒の姿>

皆の前で英語を読んだり、話したりするのは嫌だな。失敗したらカッコわるいな。



【活動の様子】

3人で1グループとし、お互いに落語を演じ合う。まずは、自分なりにジェスチャーや強弱をつけて取り組んでみる。



ここがポイント! 教師の支援

- 生徒が今までに学習したことを実践できる場に！  
→国語で学習した「話し方の観点」を確認する。
- 生徒が取り組んだことをしっかり評価する！  
→生徒同士の意見交換に加え、教師も机間指導しながら、良かった点を評価する。
- 自分の目指す姿を思い浮かべられるように！  
→良い見本を提示することで、ゴールを明確にする。

【授業のワークシート】

☆Good Point☆	☆Improvement☆
OOなところが良かった(青)	～したらもっと良い(緑)
<p>声の抑えていたのが かっこいい。</p> <p>・声がおどろく、聞かせるぞ!!! ・発音が、正確だった。</p> <p>Good Voice Make eye contact ◎</p>	<p>動をつけている と、良い感じがする。</p> <p>声も抑えて良いので、 動きもつければ◎!!!</p> <p>Use gesture read with frequent pauses</p>

For next test ...  
し、かりかほえて言え子 に頑張るぞッ!

友達同士でお互いの落語に助言！  
良い点・改善点を話し合うことで自分の落語に主体的に取り組む。

<学習後の生徒の感想>

普通に読むより、タブレットで撮影しながらやると自分では気が付かなかった点や、ジェスチャーの練習ができた。本番では緊張したが、普段通りに発表できた。英語落語を通して、英語を身近に感じられた。またやってみたいと思った。

**Q 考えを広げたり深めたりするための対話を実現させるには、どうすればいいですか？**

**A 対話を通じて、根拠を示しながら読む授業を試みましょう。**

**本時、こんな力を育てたい**

対話を通じて、多角的に文章を読む力

**【本時の学習】**

**<学習前の生徒の姿>**

どうせ「中身が大事」という話だろう。  
主人公は間抜けだな。



あらすじをつかむ時点では、ペープサート（人物画を切り抜き、割り箸をつけて人形劇にする）を用いて、興味を引くようにしました。

**本時の流れ**

- 1 あらすじをつかみ、主人公の「形」に対する考え方をとらえる。
- 2 主人公「新兵衛」は、強かったのか、弱かったのかを考える。
- 3 根拠を示して自分の考えをもつ。
- 4 班活動で意見を交換する。
- 5 話し合いを通じて「形のもつ力」に対する、実生活に即した例を入れた自分の意見を書く。

**【ワークシートの例 ↓】**

<p>★ 「形」について自分の意見を書こう。</p> <p>はじめは、新兵衛が油断したから負けたのだと思っていたが、話し合いの中で「形」そのものが大きな力を持つことがわかった。</p> <p>例えば、強い学校と試合で当たった時、ユニフォームを見ただけで「勝てるわけないわ」と思ってしまうこともある。しかし、ユニフォームという「形」が力を持ったためには、ものすごい努力がなくてはならない。私という「形」に私自身、力を与えていきたい。</p>	<p>★ 新兵衛が負けた理由は何だろうか？</p> <p>自分が強いとうぬぼれて、油断していたから。</p> <p>★ 新兵衛は（強かった）弱かったか？</p> <p>根拠・「大豪の士」・「槍中村」を知らぬ者は一人もなかった。・先駆けしんがりの功名・輝くばかりの鮮やかさ・激浪の中に立ついわおのように……</p>
---	--

**ここがポイント！ 教師の支援**

- ・ 「なんとなく」ではなく、本文の中から「根拠」を見つけて発言するよう助言する。
- ・ ピックアップした本文中の言葉と、自分の考えとの整合性を明らかにしながら意見交換させる。
- ・ 友達と交流する際には、どんな意見も否定せず、まず最後まで聞くという姿勢を大切にさせる。
- ・ 「形」が大きな力をもつことを実感した経験はないか、想起させ、話し合ったことを生かしながら推敲させる。

**<学習後の生徒の感想>**

- ・ 主人公は間抜けな男だと思っていたが、実は「形」の力を作っていたのは主人公自身だということが分かった。
- ・ 自分の実力だと思っていたことが、実は他の力によるところも大きいということに気付いた。



Q 歴史的分野で、対話的な学びを実現するにはどうすればいいのでしょうか？

A 「なぜ、そのように判断したのか」といった問いを設定・追究しましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

軍部の台頭から太平洋戦争までの経過や要因を多様な資料から考え理解するとともに、国際協調や国際平和の実現に向けて大切なことは何かを考える力

### 本時の流れ

1 学習課題を設定する。  
「なぜ、日本は英米との開戦に踏み切ったのだろうか」

2 第二次世界大戦までの国際情勢を再確認する。

3 資料から、戦前の日米の貿易、東南アジアの資源分布、日米の軍事力を確認する。

4 日米の交渉を確認し、日本がハル・ノートを受け入れなかった理由を考える。

5 学習を振り返り、国際協調や国際平和の実現には、どのようなことが大切か考える。

### 【本時の学習】

#### <学習前の生徒の姿>

日本が、空襲や原爆で多くの人たちが亡くなることになる無謀な戦争になぜ踏み切ったのか理解できない。



使用する資料（いずれも 1941 年）

#### 【①11月1日 大本営（東条内閣）の決定】

1. 武力発動の時期を12月初めと定め、それまでに陸海軍は作戦準備を終える。
2. アメリカとの交渉が、12月1日午前0時までに成功すれば、武力発動を中止する。

#### 【②11月20日 日本のアメリカへの主な要求（乙案）】

1. 日本とアメリカは、仏領インドシナ以外の諸地域に武力進出を行わない。
2. 日本とアメリカは、蘭領東インド（現インドネシア）において石油などの資源を得られるよう協力する。
3. アメリカは年間100万キロリットルの航空機用のガソリンを日本に供給する。

#### 【③11月26日 ハル・ノートの主な内容】

1. 日本は、中国および仏領インドシナから全面撤退すること
2. 日本は、中国の蒋介石政権（中国国民党）以外の政権を支持しないと確約すること
3. 日本は、日独伊三国軍事同盟を廃棄すること



### ここがポイント！ 教師の支援

歴史上の判断の理由や背景を追究する学習では、生徒が当時の状況を多面的・多角的に捉えた上で、さまざまな見方・考え方から考えさせることが大切です。かといって資料が多すぎたり難しすぎたりすると、生徒は消化不良になります。

日本とアメリカそれぞれの指導者の立場で「多角的」に考えられること、国内の政治や経済、貿易など「多面的」に考えられることなどを条件に、資料を精選しましょう。

#### <学習後の生徒の姿>

太平洋戦争は、複雑な世界情勢の中、日米のぎりぎりの外交交渉が決裂して開戦に踏み切ったことがわかりましたが、もっと調べてみたいです。

あのような悲惨な戦争を二度と起こさないためにどうすればいいのか、簡単なことではないけれど、真剣に考えていきたいと思います。



**Q 全員が主体的に話し合い活動を行い、それぞれの考えを深める手立ては？**

**A グループの人数を少なくし、課題解決後に条件を変えて考える場をつくりましょう。**

**本時、こんな力を育てたい**

式化するだけでなく、文字式の意味を考えたり、条件を変えて応用したりする力

**【本時の学習】**

**<学習前の生徒の姿>**

一つ一つマグネットの数を数えるのは大変だ。何かいい方法はないだろうか。



**本時の流れ**

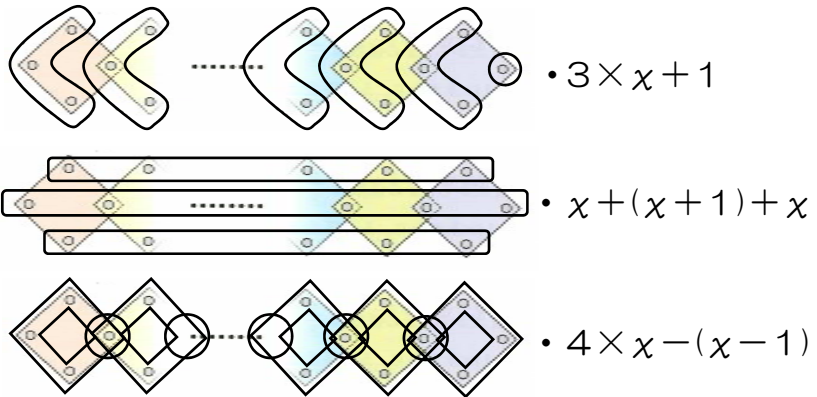
1 3、4人のグループでそれぞれの役割分担を決めて、話し合い活動を行う。

**学習課題**  $x$  枚の画用紙をとめるのに、必要なマグネットの個数を考えよう。

2 式の形が同じグループの中で、発表グループを決めて発表する。(質疑応答も含む)

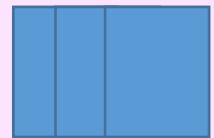
3 はり方を変えたり、はる形を変えたりすると、どうなるか交流する。(条件を変えて)

4 現実の場面をイメージすることや文字式の計算の必要性を考える。

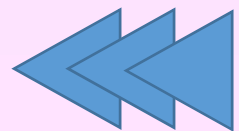


**ここがポイント! 教師の支援**

- ① 四角形を上下左右の形ではりあわせ、できるだけマグネットを少なくするには…。
- ② お楽しみ会を企画するために、三角形を重ねばりして飾り付ける。このとき…。



【重ね合わせた図】



【重ね合わせた図】

①②のように条件を変える「深い学び」を通し、生徒たちは問題文を深く読み取ったり、現実の場面を想像したりすることで、苦手な応用問題や文章問題にも取り組んでみようとする気持ちを育てたい。

**【授業の概要】**

文字式の計算の必要性を考える導入の単元ですが「深い学び」の視点から、授業の後半部分を考え直しました。条件を変える場面をイメージすることで、式化の深まりや応用が実感できると思います。

**<学習後の生徒の感想>**

問題を解くだけでなく、新しく問題を作り出すことで、自分の文字式を作る力がアップしたように感じました。特に、他の人の考えた問題は面白いし、解きたいと思った。



Q 対話を通して、観察・実験での気づきを共有させるにはどのような工夫がありますか？

A 生徒同士の意見交換が円滑になるよう、ホワイトボード等を活用しましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

眼球のつくりやはたらきについて理解し、自分の言葉で説明する力

### 本時の流れ

#### 学習課題

ブタの目はどのようなつくりをしているのだろうか。

1 観察方法の説明や注意点を聞く。

2 ブタの眼球を切り、レンズ（水晶体）を観察する。

3 レンズ（水晶体）を通したときのものの見え方について考察する。

4 グループでの意見交換を通して、自分の言葉でワークシートにまとめる。

### 【授業の概要】

光の刺激を受けとるしくみについて学習する。本時は、ブタのレンズ（水晶体）を取り出し、凸レンズと同じしくみだと気づき、目が光の刺激をどのように受けとっているのかを考えることができる。このとき、他の生徒の気づきを共有し、自分の考えを深めるために「対話的な学び」の視点から授業作りを工夫する。

### 【本時の学習】

#### <学習前の生徒の姿>

ブタの眼球は大きくて生々しいなあ。

眼球の中はどんなつくりになっているのだろう。



まず、眼球の中で見つけたものや考えたことを個人で記録する。それらを班内で共有して意見交換することで、レンズ（水晶体）が光を集める凸レンズの役割であることに気づかせた。さらに、生徒が、レンズ（水晶体）がどのようなはたらきをしているかを探りたいという思いを取り上げ、レンズ（水晶体）のはたらきを調べる場を設定した。



### ここがポイント！ 教師の支援

意見交換が円滑に進むようにホワイトボードを活用することで、分かったことやさらに調べる内容が整理され、見通しをもって課題解決に取り組む学習活動が期待できる。



【ホワイトボードのセット】

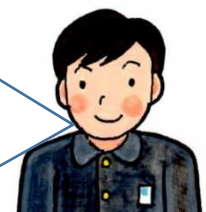
### 【授業風景】



【ブタの眼球を解剖している様子】

#### <学習後の生徒の感想>

新聞の上にレンズ（水晶体）を置いて文字を見ると、文字が大きくなっていることが分かった。友達と話し合っ、レンズ（水晶体）が目の中に光を集め、凸レンズと同じようなはたらきをして像をうつしていることが分かった。





Q 生徒が習得している知識を活用しながら思いや意図を持って創作できるようにするには、授業でどのような工夫をしたらいいですか？

A 創作活動が段階を踏んで進められるよう、計画的にステップアップをしましょう。

本時、こんな力を育てたい

コード進行を基にしながら思いや意図を持って旋律をつくろうとする力

本時の流れ

1 前時につくった2分音符だけの簡単な旋律を演奏する。

2 リズムを変化させて旋律を工夫し、局に題名をつける。

3 よりイメージに合った曲にするために、非和声音を取り入れて旋律を工夫する。

4 イメージに合わせて工夫した点を、具体的にワークシートに記入して、本時を振り返る。

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

音の高さは選んだけど、どうやったら旋律になるのかな。



ここがポイント! 教師の支援

- ・リズムに変化を付ける時は、2拍分のリズムを書いたカードを選択させる。リズムカードは、1年次からリズム遊びなどで使用しているので、取り組みやすい。
- ・旋律に題名を付けることで、音の高さやリズムを単に選択するだけの活動から、自分の思いを表現する旋律づくりへと学習を進め、「深い学び」に向かわせていく。
- ・例を挙げながら非和声音の効果を説明し、必要に応じてそれを取り入れさせながら、自分の思いがより表現できる旋律になるように工夫させる。

＜学習後の生徒の感想＞

- ・はじめは本当にできるのか不安だったけど、一つ一つ決めていくと意外と簡単になって思いました。
- ・「この曲を聴いた人はどう思うかな」と考えながら作るいろいろなアイデアが思い浮かびました。
- ・いつもはつくられた楽譜を演奏しているので、逆に自分で作るのは新鮮で楽しかったです。自分の思いを音やリズムで表すのは難しかったけど、意外とうまくできました。

リズム

音を選んでリズムを聞こう	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩	♩ ♩ ♩ ♩
題名	ミ	フ	ソ	ソ	ミ	フ	ミ
	ド	ド	レ	ド	ド	ド	ド
	ラ	ラ	シ	ラ	ラ	シ	ラ
	フ	ソ	ソ	ソ	フ	ソ	ソ
	ミ	レ	ミ	ミ	フ	レ	ミ
	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド
	ラ	ラ	シ	ラ	ラ	シ	ラ

題名を考えよう  
しんぼ

工夫したところを書こう  
2小節目の後半と3小節目の前半で一度止まって、また、勢いよく飛び立っている様子を表現した。最初速くして、元気な様子表現した。また、最後の音を三つの音だけにして、とんぼが勢いよくスピードをあげているようにした。

【感想】  
音に合ったリズムを探すのが難しかった。また、音やリズムの特徴からどんなことが想像できるのかというところが難しかった。

上の表を楽譜に書いてみよう

リズムを工夫してみよう



Q 共に考えを深め合う対話を実現させるためにはどのような工夫がありますか？

A 友だちと考えを補い合ったり、比べて吟味したりできる交流を設定しましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

スポーツへのかかわり方として「する」だけでなく、「見る」楽しみ方や「支える」楽しみ方を知り、自らの豊かなスポーツライフへとつなげようとする力

#### 本時の流れ

1 運動やスポーツには、どのようなかかわり方があるのかを考える。

2 「支える」かかわり方について理解する。

**学習課題** 「支える」の価値や喜びって何だろう？

3 身近なところから「支える」かかわり方について、グループで交流する。

4 友達との交流を通して、自分の生涯スポーツ設計図を見直す。

#### 【授業の概要】

単に運動やスポーツを「する」というかかわり方だけでなく、自分のライフステージに応じた運動やスポーツの多様な楽しみ方や学び方に気付くことができる単元です。

#### 【本時の学習】

まず、現在自分は運動やスポーツにどのようにかかわっているかを考えて、生涯スポーツ設計図を作成しました。その後、グループで各自のスポーツ設計図を共有する時間を取りました。その際、「する」「見る」「支える」という視点から考えるようにしました。

#### ＜学習前の生徒の姿＞

運動やスポーツを「する」や試合観戦などの「見る」かかわり方が多いな。



やはり、「する」「見る」といったかかわり方をする生徒が多かったので、バレーボール大会の会場の写真を各グループに配布し、「支える」かかわり方を見つけてホワイトボードに記入し黒板に貼らせました。そして、全体で共通理解しました。中には、大会を企画した人や会場を設営した人、グッズを売る人などといった写真に写っていないところからも「支える」かかわり方を見つけたグループもありました。「支える」ことの大切さや意義についても考えることができました。

#### 👉 **ここがポイント！ 教師の支援**

次に、自分の身の回りで「支える」かかわり方をしている場面はないかをグループで考えさせました。体育の授業や部活動、運動会など身近なところから考えさせることで、より自分のライフステージにつなげて考えやすくなり、自分の生涯スポーツ設計図を見直した際、「ささえる」かかわり方を書き足した生徒が多く見られました。

#### ＜学習後の生徒の振り返り＞

監督やトレーナーなどの「支える」人もスポーツを「する」人と同じようにスポーツにかかわっていることが分かった。ぼくも捻挫をして野球ができなかった時、ボールを出したり、声を出したりして「支える」という意識が強くなった。また、そうして「支えて」いると周りもぼくを「支えてくれる」のではないかと思った。



**Q 友だちと協力して、自分に似合う衣服を考えるには、どのような指導法の工夫や授業展開が必要ですか？**

**A 班員の意見を取り入れ、自分らしい着方や似合う色を見付ける場を設定しましょう。**

**本時、こんな力を育てたい**

目的に合わせた衣服を自分らしくコーディネートできる力

**本時の流れ**

1 自分の好みの服を持参し、どこが気に入っているかについて考える。

**学習課題**  
自分らしく着こなすために必要なことは何だろう。

2 似合う色はどうやって決まるのかを考える。

3 班ごとに自分の似合う色（パーソナルカラー）を見付ける実験をする。

4 実験結果をワークシートにまとめる。

5 本時を振り返り、再度、自分に似合う色でコーディネートしてみる。

**【本時の学習】**

＜学習前の生徒の姿＞

自分にはどんな色やデザインの服が似合うのかな。自分の好きな色が似合う色だと良いな。



持参した服の好みの理由を考えることにより、「自分らしい着方の工夫について知りたい」という意識を高めた後、衣服のコーディネートを左右するポイントについて考えました。その後、実際の布を使った実験を班ごとに行う中で、互いの考えを伝えたり、友達の意見から自分に似合う色を見いだしたりすること等を通して、〈色が与える印象〉〈似合う色が決まる要素〉〈パーソナルカラー〉についての実感を伴った理解へとつなげました。

**ここがポイント！ 教師の支援**

- 同色で明度や彩度の違う布を準備して、色の与える印象や心理的印象について班で実験をして考えさせる。
- 違う色の布を顔等に当てながら、自分に似合うパーソナルカラーを班で見付ける。（下の写真）
- 中学生の時期は肌が若く、どの色も似合うのでいろんな色に挑戦することをアドバイスする。



【似合う色をアドバイスし合う様子】

＜学習後の生徒の感想＞

- ・ 自分に似合う色が決まる要素がわかったので、これから服を選ぶときに参考にしたい。
- ・ 今まで着たことのない色が似合うと友達が言ってくれたので、チャレンジしてみようと思った。



Q 生徒が主体的に話す活動に取り組むためにどのような工夫がありますか？

A ペア・グループ活動を通して自分の考えを提示する場を設定しましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

単数・複数の概念や、その表現の仕方を学習して、自分の持ち物を説明したり、相手にたずねたりしようとする力

### 【本時の学習】

#### <学習前の生徒の姿>

英語で表現するのは難しいなあ。  
相手にどんなことをきけばいいのかわからない。



### 本時の流れ

1 教科書を読み、単数形と複数形の表現方法を学ぶ。

2 教科書を例にして、自分の持ち物を伝えたり、相手の持ち物をたずねたりする。

**学習課題** 持ち物について伝えたり、たずねたりしよう。

3 ペアになり表現活動を行う。相手を替えて繰り返す。

4 クラスで発表する場を設定し、与えられた状況の中で対話を行う。

#### 【本時の教科書の登場人物】

ゆき・・・ 中学一年生。サッカーが好きな女の子。クラスメートと一緒に英語を学んでいる。  
たけし・・・ ゆきのクラスメート。休日にはバスケットボールを楽しんでいる。  
マイク・・・ ニューヨークからの転校生。野球と音楽が好き。日本語を少し話せる。

I like basketball. I play it every day.  
I have a pair of shoes. I have a uniform.  
How about you?



【班活動の様子】

I like tennis.  
I play tennis every day.  
I have a racket.  
I have two balls in my bag.

自分が持っている物を相手に分かるように、紹介しよう。以下の三点を意識しよう。

- 単数形・複数形どちらを使うのが適切か？
- 複数形の語尾に注意して発音できたか？
- 会話がスムーズに行えたか？



#### ここがポイント! 教師の支援

授業の最後には、与えられた状況で対話を行うことを周知し、ペア活動や班活動の時間を十分に確保して繰り返し練習する。

#### <学習後の生徒の感想>

自分のことを相手に伝えることができました。相手が持っている物や、その個数も聞き取ることができました。普段しゃべっているときは、単数形や複数形のことを考えながらしゃべってはいないけれど、英語ではそれぞれの単語の形が変わっておもしろいなあと感じました。これからも複数形を意識して英語を話したいです。



Q 小説を読む「楽しさ」を味わわせるには、どのような活動をしていけば良いですか？

A 条件を設定し、小説の続きを創作する活動に取り組んでみましょう。

本時、こんな力を育てたい

文章中の根拠をもとに、書くことを通じて登場人物の人物像や心情を読み取ろうとする力

本時の流れ

- 1 初めの場面と終わりの場面の銀木犀の描写を比較する。
- 2 夏実と仲直りすることを想定して話の続きを創作するために、時や場所等の場面設定を行う。
- 3 4人グループになり、場面設定を紹介し合い、お互いにアドバイスを行う。
- 4 アドバイスを参考にしながら、小説の続きを個人で創作する。

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

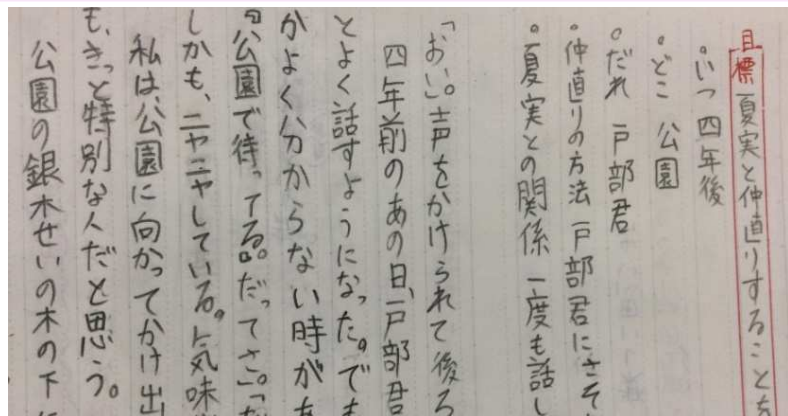
小説の続きを考えるのっておもしろそう。自分で想像をふくらませたら、どんな話になっても良いよね。



まず、銀木犀の描写に着目することで、すぐに夏実と以前のように仲良くなることはあり得ないということを全員で確認します。その後、夏実と仲直りをするならと仮定して、銀木犀の木の下をくぐって出た後、夏実にどのように声をかけるのか、夏実と仲直りをした後、どの程度の関係になるのか等を想像させます。

ここがポイント！ 教師の支援

共通の条件は、「夏実と仲直りをする」ことを想定すること。時間の経過や、その他の人物の登場等については自由に創作させました。場面設定が決まった時点で、グループごとにアドバイスし合い、情景描写や文章中に出てきた表現を取り入れたり、人物像に迫ったセリフを入れたりすることなども提案されました。それらを取り入れながら創作することによって、小説の世界に入り込むことができ、読みを深めることができていました。



【生徒のノート】

【授業の概要】

「夏実以外の友達ができる」等ではなく、あえて「夏実と仲直りをする」ことを想定して、小説の続きを創作する活動を行いました。限られた条件の中で、根拠として挙げる箇所を吟味していきます。

＜学習後の生徒の感想＞

工夫したことは情景描写を入れたことです。「一番星が輝いている」というところで、「私」のうれしい気持ちを表しました。夏実と「私」の関係、「私」の思いを考えながら作ることができました。



Q 「時代を大観する学習」を、深い理解につなぐにはどうすればいいのでしょうか？

A 地域の地名を各時代で整理し、「時代を大観する学習」に生かしましょう。

**本時、こんな力を育てたい**

身近な地域の遺跡や文化財に触れる学習を通して各時代の特色への理解を深め、地域の一員として、地域を大切にしていこうとする力

**本時の流れ**

1 学習課題を確認する。  
「校区に残る古代に由来する地名には、どんな意味や関係があるのだろう。」

2 自分が現地調査・文献調査で調査した内容について、グループ内で発表し合う。

3 教員の現地調査・文献調査の結果を伝え、質問をする。  
「なぜ、1300年も前につけられた地名が今も残っているのだろう。」

4 古代の特色と校区内の地名をつなげ、略年表と地図にまとめるとともに、学習を振り返る。

**【本時の学習】**

**<学習前の児童の姿>**

地域の「土器」「郡家」「三条」「七条」「八条」の地名は、古代に由来していると先生は言うけれど、どんな意味があるのかな。中央の政治や文化とどう関係しているのかな。



まず、以下の2つの文献を手がかりにして、校区内の地名の由来を「古代」「中世」「近世」で整理した。

- 「地名で描く丸亀の歴史」(『まるがめ史料シリーズ第四号 丸亀新風土記』(丸亀市教育委員会 昭和40年発行))
- 「丸亀地名考」(『まるがめ 第三号』 丸亀市文化協会 昭和38年発行)

古代の学習の終末に、「身近な地域の歴史」と「時代を大観する学習」を組み合わせで実施した。現地調査で生徒自らが遺跡や文化財に足を運んで見たり聞いたりすることによって、飛鳥時代や奈良時代など、中央の政治を中心に学んできた古代の特色を、身近な地域とつなげて実感させることができた。

時代を大観する学習と身近な地域の歴史の学習をつなげる教材を開発することで、生徒が時代の特色を深く理解することにつながる。

(校区内の地名の例) 中世:「地頭」、近世:「法懂寺池」

**ここがポイント! 教師の支援**  
古代の中央政治や文化と、身近な地域の歴史をつないただけでは、理解は十分に深まらない。「なぜ、今も残っているのか」という問いを設定し、考えさせることによって、古代に作られた条里の区画や河川工事が、方位や自然の特徴を生かした高い知恵や技術に裏打ちされたものであることに気付かせることにつながり、古代の特色への理解が深まる。

**<学習後の生徒の感想>**

この地域は、古代から土器川が繰り返し氾濫を起こして流れが変わり、その後の開墾によって農作物の実り豊かな土地となったことがわかりました。

また、大化の改新の前から耕作地があり、律令制の条里の区画が地名や地形に残っていることにも驚きました。

古代の国造りは、私たちの身近な地域にも及んでいたことがわかりました。



【地域調査の聞き取りの様子】

**Q 数学的な思考を高め、より深い学びにする手立てがありますか？**

**A 課題解決する方法を考えた後、その方法について比較・検討する場を設定しましょう。**

**本時、こんな力を育てたい**

日常の課題を解決するために、既習の知識を活用して思考することができる力

**【本時の学習】**

**<学習前の生徒の姿>**

校舎の高さを測るには、これまでに学習したことを、どのように使えばよいのだろう。



**本時の流れ**

1 校舎の高さを測るにはどんな方法があるかを考える。

**学習課題** 相似や比の性質を利用して校舎の高さを測定しよう。

- 直角二等辺三角形の性質を用いる
- 縮図をかく
- 鏡を利用する
- 比の性質を用いる

2 どの方法で測定するか、班で話し合い、実際に測定する。

3 縮図をかいたり、計算したりして校舎の高さを求め、誤差が生じた理由を考える。

4 この考えを使って、他に測ってみたいものを考える。

- 飯野山の高さ
- 東京スカイツリーの高さ

Ⓐ 仰角が45°になる位置でaの値を求める。【二等辺三角形の性質】

Ⓑ x, aの値を測定し、縮図をかいて高さhを求める。【相似な図形の性質】

Ⓒ 入射角は等しい。鏡を用いてa, b, cの値を測定し、縮図をかいて高さhを求める。【相似な図形の性質】

Ⓓ 写真を撮り、aとbの比から、高さhを求める。【比の性質】



【仰角を計測している様子】

**ここがポイント! 教師の支援**

- ① 図形のどの性質が使えるか、二等辺三角形や平行四辺形の性質を提示する。
- ② できるだけ正確（誤差が小さくなるよう）な方法を考えさせる。
- ③ 角度を正確に測定させるために、上の図のような、10分の1度まで判別可能な測定器を作成する。

**<学習後の生徒の感想>**

数学の考え方をを使って校舎や山の高さを求めることができ嬉しい。次は実際には測定することが難しいものの長さを求めてみたい。



**【授業の概要】**  
本時は相似な図形の活用の2時間目にあたる。「直接測定困難な長さを求める」という日常生活で数学を利用することで、数学の有用性を実感させたい。



Q 結果から科学的に考察を深めていくには、どのような工夫がありますか？

A 対話する時間を十分に設定し、生徒に気づかせるようにしましょう。

本時、こんな力を育てたい

実験結果から、「力学的なエネルギーの移り変わり」を科学的に思考し、表現する力

本時の流れ

学習課題 2コースの小球ジェットコースターで、同時に小球を転がすと、ゴールする順位がどうなるのだろうか。

1 小球の運動のようすを予想し、理由も発表する。

2 ジェットコースターの実験をする。

3 実験結果を考察する。  
個人→実験班→学級全体

4 本時のまとめをする。  
(時間があれば、検証方法を考え、実験する)

ここがポイント! 教師の支援

教師はつい説明や指示が多くなる。生徒の中から言葉が生まれてくるような『手立て』をしっかり用意し、生徒の活動のようすを見守るのも支援の1つである。生徒がじっくりと考えられるよう、個や実験班で追究する時間をしっかりと保障する。

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

Bはコース途中の下り坂で速さが速くなるが、上り坂で速さが遅くなる。AとBはスタートとゴールの高さがそれぞれ同じなので、AとBは同時にゴールする。

小球の到着順位は？

コースAが早い

コースBが早い

同時に到着

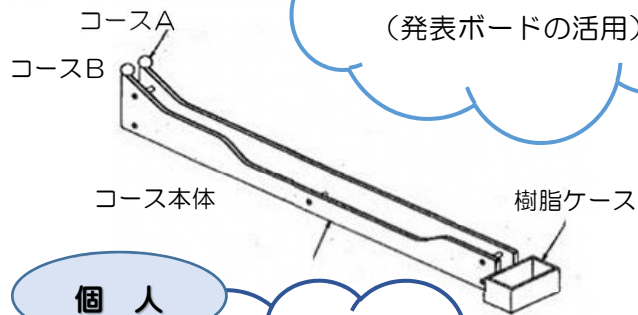
【実験の様子】



実験班

実験しながら考察

何度も小球を転がしながら、コースBの方が早い理由を探る。  
(発表ボードの活用)



【発表ボードの内容】

個人

ワークシートの工夫

方眼を利用して小球の運動のようすを視覚的に表現し、思考を支援する。

学級全体

科学的思考を深める

各班の発表ボードを学級全体で共有

⇒各班で再度話し合い

⇒学級全体で科学的な根拠を探る

＜学習後の生徒の感想＞

コースBが早かった！ why？ 実験結果に目を疑ったが、みんなと話し合っていくうちに、「なるほど」と納得できた。相手にわかりやすく説明しようと、言葉だけでなく、図や数値データを使う工夫ができたことがよかった。

Q 対話的な学びによる創作活動の授業では、どのような工夫をしたらいいですか？

A 学習意欲を引き出す課題設定と、仲間と協力して課題を解決する場を設定しましょう。

本時、こんな力を育てたい

言葉の抑揚と音高の動き幅の関わりを意識して、旋律を工夫してつくる力

本時の流れ

1 前時に班で作った、言葉の抑揚に沿った自然な音高の変化を持った旋律を確認する。

2 課題詩内の「言葉の雰囲気の違い」を生かし、音高の動き幅を工夫して旋律を作るために班内で交流する。

3 班ごとに作品を発表し合い工夫の根拠とその成果について互いに意見を交わし、他の班とも交流する。

4 仲間との交流を通して、本時に身に付いた力は何か、ワークシートに記述しながら振り返る。

【授業の概要】

課題詩の言葉の抑揚やニュアンスを味わいながら、詩に合った旋律を創作する題材です。

本時は、工藤直子さんの詩「はなのみち」の言葉の対比によって表現されている雰囲気の違いを感じ取らせ、生徒が意見を交換しながら課題を解決する「対話的な学び」に向かう授業づくりの工夫をしました。

【本時の学習】

<学習前の生徒の姿>

もっと詩の雰囲気に合った旋律をつくれなかなあ。



本時まで、生徒は、「ふしづくり」の基本となる言葉の抑揚と音高の変化について学習しました。「日本語アクセント辞典」を活用し、言葉の抑揚を考える判断のよりどころとしました。

本時では、詩の言葉「ああふわり」と「おおひらり」の雰囲気の比較から「音高の動き幅の違いで表現しよう」という課題で、交流の場を設定しました。

ここがポイント！ 教師の支援

順次進行と跳躍進行について説明し、その使い分けや跳躍の幅を工夫することで、詩の雰囲気に合った旋律を工夫してつくる活動であることを伝えました。詩を何度も感情を込めて朗読を試み、詩のあらゆる雰囲気をうまく表現する言葉の抑揚を考え、それに合った旋律の動きを考えるよう助言しました。

思いや意図をもって創作ができるよう、ワークシートに「こんな雰囲気だから、こんな音の動き方にしました」の欄を設けました。話し合いで互いの意図を理解し、作品への意見が交換できるようにしました。

「対話的な学び」を通して、生徒たちは互いの思いを大切にしながら、より詩に合った「音の選び方」を工夫することができました。

ことば	あ	あ	ふ	わ	り	か	ぜ	の	な	か
抑揚の線	[抑揚線図表]									
音の高さ	[音高記号]									
選んで○	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ	ソ
	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド

【生徒のワークシートの一部】

<学習後の生徒の感想>

本当に良い歌をつくるためには、作詞者が言葉に込めた思いやイメージをしっかりと感じて、それに合った音高の動き幅を工夫することが大切だとわかりました。



Q 話し合い活動を通して表現力を習得させるためにはどのような工夫がありますか？

A 小グループで話し合い、自分と違う考えも取り入れて表現力を高める場を設定しましょう。

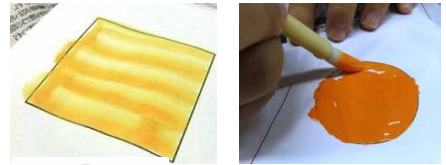
本時、こんな力を育てたい

ポスターカラーの特性を生かしたムラのないぬりかたを習得し、今後のデザイン制作に生かす力

【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

色ぬりは苦手だな～。  
またはみ出した。ムラもできた。がっかりだなあ。



【色ぬり失敗例】



ありがちな失敗例

- ・薄めすぎたり、濃すぎてかすれてしまったりする。
- ・筆の先だけで混ぜて、筆の内部の水が混ざりムラになる。
- ・混ぜ方が不十分なのでムラになる。
- ・どこからぬっていいかわからず適当にぬり、ぬり残しができる。
- ・太い筆一本だけでぬり、角をぬり残したりはみ出たりする。

本時の流れ

1 ムラのない美しいぬりかたができる方法を自分で考える。

学習課題 話し合い活動を通して美しくぬるコツを発見しよう。

2 成功例や失敗例を話し合いどんなコツがあるか考える。

3 班の中で上手な生徒が教えたり、班の意見を試したりする。

4 ムラのない美しいぬりかたができる方法について自分の考えをまとめる。

縁取りは、長い線を引くようにぬると、きれいだよ。

〇〇さんのぬりかたはきれいだね。どうやったら、上手にぬれるの？

一定の濃さに混ぜるんだよ。筆全体で混ぜないと、筆の中の水が混ざってムラになるよ。



面相筆で縁取りしてから大きい筆で中を同じ方向にぬるといいんだ！

【班で話し合いながら色ぬり】

「ムラがない」「はみ出ない」「ぬり残しがない」の三つの観点から、上手なぬりかたのコツを考えよう。

- ①水の量はどれくらい？
- ②混ぜ方次第で絵の具の美しさが違ってくる？
- ③どこから、どのようにぬるときれい？



ここがポイント！ 教師の支援

「濃さ」「混ぜ方」「筆の使い方」「ぬる順番」など話し合いの視点を設定する。机間巡視し、上達した生徒を紹介する。

＜学習後の生徒の感想＞

- ・初めて使うポスターカラーは、ムラができたり、はみ出てうまくぬれなかったけれど、班でぬりかたのコツを調べる内にうまくできてうれしい。
- ・友達のぬりかたを見て、縁からぬっていたので、参考にしてみたらきれいにぬれました。
- ・友達のアドバイスで、縁取りの時、角の一手前で止めることで、はみ出ないことがわかりました。友達のアドバイスは心に残りました。



Q なかまとの交流を通して、見方・考え方を深め、ときめきのある授業にするには？

A グループの形態や教材・教具を有効に活用しましょう。

**本時、こんな力を育てたい**

課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら思考を深め、技術的なポイントを見つけようとする力

**本時の流れ**

1 自分の力を知る。何ができないか課題を見つける。



**学習課題**

ひざやつま先が伸びた、美しい側方倒立回転ができる。



2 自分の課題に応じた練習方法を実践する。(練習方法を提示する)



3 友だちとお互いの演技を見合い、できていない所やどのように動いたらよいかを教え合う。



4 グループ学習などを通して、課題解決に向けての自分の考えをまとめる。

**【本時の学習】**

**<学習前の生徒の姿>**

自分では気を付けているつもりなんだけれど、どうしてひざやつま先が伸びないのだろう。



**ここがポイント! 教師の支援**

授業の工夫点

○グループ学習

- ・3～4人の少人数で行い、意見を述べやすくする。
- ・自分の意見だけでなく、友だちの意見を取り入れ、理解を深めたり、主体的に取り組んだりする。
- ・見る視点

①姿勢 ②視線 ③膝、つま先

○タブレット端末の活用

- ・練習前の側方倒立回転を撮影することで、今のできばえを把握し、「何ができていないのか」「どうすればできるのか」「何を意識すればよいのか」を考える。
- ・練習の途中や最後に撮影し、動きの変化を確認して自分の成長を感じる。

○教具の工夫

- ・壁を使って、倒立から側方へ回ってみせる。
- ・ゴムを使って、膝やつま先に意識を持たせる。



【タブレットで課題発見】



【足先がゴムにつくように】

**<学習後の生徒の感想>**

友だちにアドバイスをもらいながら練習するうちに、少しずつできるようになった。また、つま先や膝が伸びる感覚が分かってきたので嬉しい。



Q 生活課題について多面的に捉えさせるには、どのような工夫がありますか？

A 話し合いの場面を2つのステップで設定し、多様な観点からそれぞれの知識を相互に関連付け、深い学びになるようにしましょう。

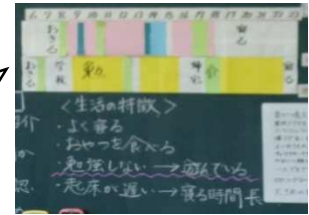
### 本時、こんな力を育てたい

遊びの重要性を考え、幼児の発達段階に適したおもちゃを選択できる力

### 【本時の学習】

＜学習前の生徒の姿＞

幼児は遊ぶばかりで勉強しないからいいなあ。どんなおもちゃでも買ってあげると喜んで使うだろうなあ。



【幼児の生活を確認】

幼児の1日の生活は「寝る・食べる・遊ぶ」時間がほとんどである。勉強時間がないので幼児になりたいという発言もでてきた。幼児の発達にとって遊びはとても重要である。それを考えるために、幼児が喜ぶおもちゃを製作した。

### 本時の流れ

1 幼児の1日の生活のリズムを確認する。

学習課題 幼児が喜ぶ（幼児に適した）おもちゃを考えよう。

2 製作したおもちゃが何歳の幼児に適したものかを考える。

①班でおもちゃを3段階の年齢に分類する。

②年齢ごとにグループを作り、おもちゃが年齢に適しているか再検討する。

③班に戻り、おもちゃが年齢に適していたかを紹介し合う。

3 幼児が喜ぶおもちゃ選びのポイントを発表し合い、幼児の年齢に適したおもちゃの選び方についてまとめる。

### ここがポイント！ 教師の支援

ステップ1：班でおもちゃに適した年齢を話し合う。  
0～1、2～3、4～5の3段階

おもちゃの使い方が難しいかどうかという視点のみで年齢を考えることが多い。

ステップ2：分類した年齢でグループを作り再度、話し合う（様々な観点で確認する）。

既習事項である、幼児の体の発達（手先の動き、足の動き）や、心の発達（個～グループ～集団活動への成長）をまとめたプリントを確認させ様々な視点から話し合う。短時間で視点を変えて話し合うことで、自分で気付かなかった関連性を見付けることができる。

班で学習した年齢のポイント理由を紹介する。

2つのステップで理解できたことを班員に紹介し、幼児の特徴や安全面でのこだわりを互いに聞くことで、おもちゃを選ぶポイントを考える手助けとなる。

### 【授業の概要】

幼児にとっての遊びの重要性と幼児の体や心の発達との関連を、実際に製作したおもちゃを使って考えさせた。話し合うグループの条件を変え、2つのステップで話し合いを行った。既習の知識を基に徐々に細かな視点で話し合うことで考えを深め、自分のおもちゃの特徴を1回目の班に戻り、詳しく説明することで理解を深めることができると考えた。



【発表の様子】

＜学習後の生徒の感想＞

年齢によってできることやできないことがあり、1～2歳は手が不器用だったり、すぐ口に入れたりするので、大き目のおもちゃがよいと思いました。行動や身体の発達、心の発達によりおもちゃや遊びが変化していくとわかりました。安全で成長に結びつくおもちゃを選んであげたいと思いました。

Q 学んだ知識を関連づけ、表現力を高めるにはどのような工夫がありますか？

A 到達目標を明確にし、自分の考えや気持ちを表現できるように、話題や場面、活動の場を明確に設定しましょう。

### 本時、こんな力を育てたい

スキット作りを通して、「確認する」「相づちを打つ」「質問する」「感想を述べる」など、対話のつなが方を意識し、自分の考えや気持ちを言語へと具現化する力

### 本時の流れ

1 ペアで1分間トークをする。  
(帯活動)

2 対話をつなげるためのバリエーションを確認する。

3 モデル文を読み、5W1Hの情報や対話のつながりをチェックする。

4 4人グループで以下の3点について構想を練り、スキットを作る。

- ・対話をしている場面
- ・登場人物の人間関係
- ・身近な話題

### 【本時の学習】

#### <学習前の生徒の姿>

- ・友だちといっしょにするなら頑張れそうな気がする。
- ・特に書きたいことがない。何を書いたらいいのかわからない。
- ・何となくイメージはわくけれど英語にするのは難しい。

#### 👉 ここがポイント! 教師の支援

##### 【支援1 4人グループで取り組む】

本来、ペアで行う活動をあえて4人グループにし、役割分担を明確にして、多様な表現を引き出すことができるようにする。英語が苦手な生徒も意欲的に取り組めるようにする。

##### 【支援2 実際の対話をイメージさせる】

対話の場面(場所・時間)、登場人物(年齢・関係)、切り出す話題について考えさせ、書くための材料作りをする。普段のおしゃべりの感覚を味わうため、日本語で自由に対話し、スキット作りのヒントとする。

##### 【支援3 学習したことを関連させる】

難しく考えすぎず、短い簡単な言い回しで、自分の考えを十分に表現できるということを助言する。



【4人グループでの活動の様子】



【本時の活動の様子】

#### <学習後の生徒の感想>

- ・ 普段、友だちとは特別堅苦しい話をしていっているわけではなく、相づちや繰り返しなどを無意識に使って、自然と対話がつながっていることに気付いた。英語も同じ「言葉」だと考えたら、英文を考えるのもそんなに難しいと感じなかった。
- ・ 最初は何をどうしたらいいのかわかってもつかなかったけれど、場面や話題が決まると自然とイメージが膨らんできた。グループで友だちとアイデアを出し合いながら対話をつなげるのが楽しかった。

### Ⅲ おわりに

「今までの自分の授業で大丈夫。」

そう思われる方もいるかもしれません。

しかし、「自分が知らないことを知っている自分の方が賢い」と話したソクラテスのように、今一度、「主体的・対話的で深い学び」の視点から自分の授業を謙虚に振り返り、授業改善に取り組んでみましょう。

子どもたちの夢と笑顔のあふれる授業をめざして・・・。







さぬきの教員 かかわりの三訓

一 共感的に受け止め

二 チームの力で

三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会

さぬきっ子 学びの三訓

一 準備して

二 姿勢整え

三 しつかり聞こう



香川県教育委員会